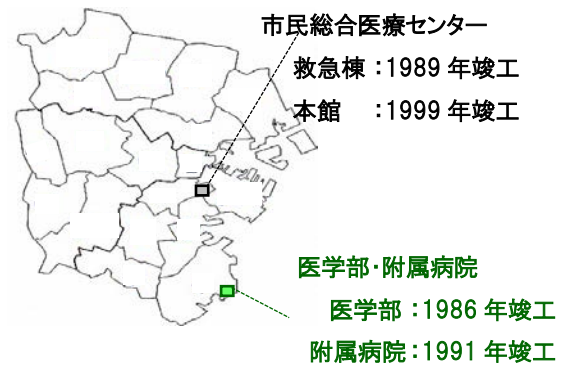


## 横浜市立大学 医学部・附属病院等の再整備の検討について

### 1 検討する背景

横浜市立大学附属病院と附属市民総合医療センター救急棟は、築約 30 年が経過し、施設が老朽化・狭あい化しており、患者様の療養環境やプライバシー保護などに支障が生じています。

そこで、本市として、有識者の方にご意見を伺った結果や、市大内部での検討結果等を参考にして、「医学部・附属病院等の再整備」について、総合的に検討を進めています。



【施設位置図】

### 2 再整備の方向性

- (1) 再整備にあたっては、少子高齢化に伴う人口減少等により、今後、需要が増大する回復期・慢性期機能の病床の大幅な不足が見込まれる一方、大学病院で主に対象とする高度急性期・急性期病床の病床については充足している状況や、2病院体制による現行の課題を解決するため、大学病院としての機能を1病院に集約する。
- (2) 病床数については、1,000床程度（現行2病院の病床の合計は1,400床）を基本とし、今後更に精査する。
- (3) 新たな附属病院は、診療（病院）・教育（医学部・医学研究科）・研究機能を一体とし  
て整備し、機能は、現在2病院が有している機能を基本に検討を進める。
- (4) 現行の2病院については、これまで2病院が大学病院として果たしてきた役割や、現行2病院が立地している地域に、将来求められる医療・福祉ニーズを踏まえながら、必要な機能を確保することを基本に検討を進める。
- (5) 再整備は、敷地の限られる現行2病院（福浦・浦舟）の現地での建替は困難なため、将来的な医療需要の高さ、市全域からのアクセス性を考慮し、市中心部を中心に、必要な条件を満たす土地を検討する。
- (6) 現在のところ、市中心部に適地はないが、将来的な土地利用の可能性まで広げて検討すると、「米軍根岸住宅地区」は、必要な条件を概ね満たしており、有力な候補地

である。

### 3 今後の取組

年内に上記の再整備の方向性を基本とした再整備構想（案）を策定し、市民の皆様のご意見も伺っていく予定です。

#### 【参考】根岸住宅地区の概要

根岸住宅地区は中区、南区、磯子区にまたがる約43haの米軍施設です。昭和22年に米軍人やその家族などが居住する住宅地区として接収されました。平成16年に日米で返還の方針が合意され、平成27年には米軍関係居住者が全て退去していますが、返還には至っていません。



- 面積  
国有地：約 27.3ha (63.5%)  
民有地：約 15.6ha (36.4%)  
市有地：約 0.03ha (0.1%)  
合計：約 42.9ha
- 地権者  
民有地権者数：約 180人
- 主な地域地区等  
第1種低層住居専用地域  
第1種高度地区  
第3種風致地区